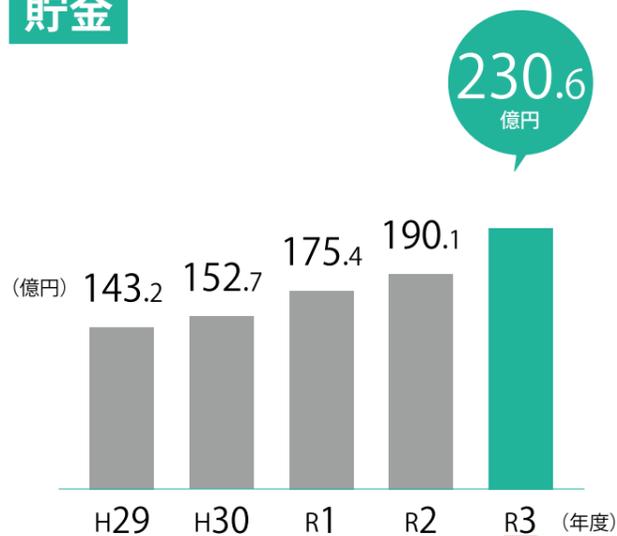


お金のやりくり 貯金と借金

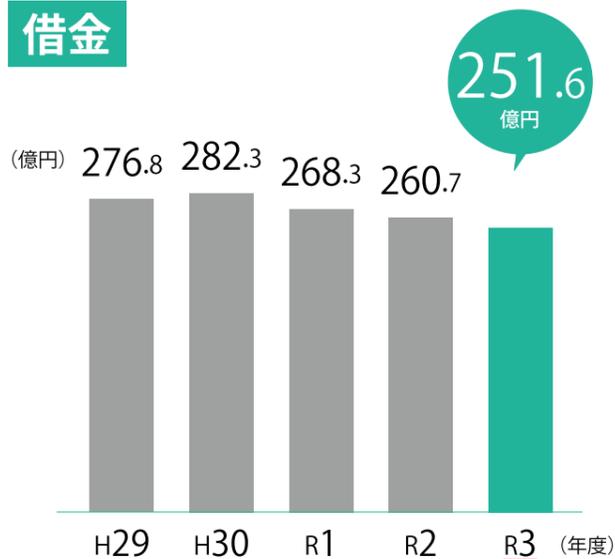
貯金と借金は、中期財政計画に取り組み目標を定めており、毎年度の決算状況を踏まえながら、将来を見据えた財政健全化に継続して努めていきます。

貯金



ふるさと応援寄附金などの積み立てにより、貯金が前年度から40億5千万円増加し、230億6千万円になりました。

借金



市債の新規発行が前年から増加したものの、返済がそれを上回り、9億1千万円減少し、残高は251億6千万円になりました。

収支は 11.1 億円の黒字 (令和4年度への繰越額1.5億円を除く)

会計	歳入	歳出
普通会計	439億2,248万9千円	426億5,998万2千円
一般会計	439億413万4千円	426億4,191万8千円
文化会館事業	6,756万5千円	6,727万4千円
国民健康保険	75億8,188万5千円	75億4,592万8千円
後期高齢者医療	10億2,803万1千円	10億2,653万5千円
介護認定審査会共同設置事業	3,174万5千円	3,174万5千円
介護保険事業(保険事業勘定)	65億9,726万5千円	64億2,425万5千円
介護保険事業(サービス事業勘定)	1,020万8千円	1,020万8千円
公営事業会計		
特別会計		
公営企業会計		
病院事業会計		
水道事業会計		
下水道事業会計		

(経費が重複するため、その分を控除して集計しています)

公営事業会計	収益	費用
公営企業会計		
病院事業会計	151億3,199万円	141億8,559万3千円
水道事業会計	16億3,888万6千円	14億8,181万8千円
下水道事業会計	20億3,703万円	19億6,333万1千円

「ハートフルで市民が主役」のまちづくりに加え、市民の命を守るため、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を最優先事項とし、ポストコロナに向けた積極的な財政出動を実施しました。

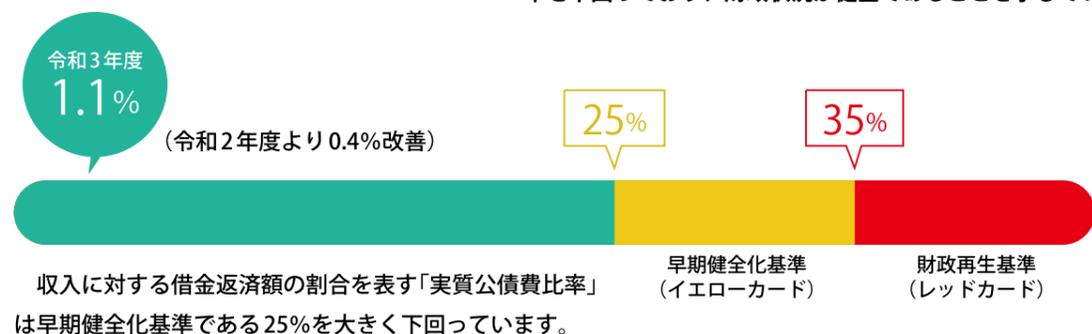
詳しい内容は市ホームページで
HP 23373

決算は、9月の市議会第3回定例会に上程し、決算特別委員会で審議されたのち、12月の第4回定例会で認定予定です。

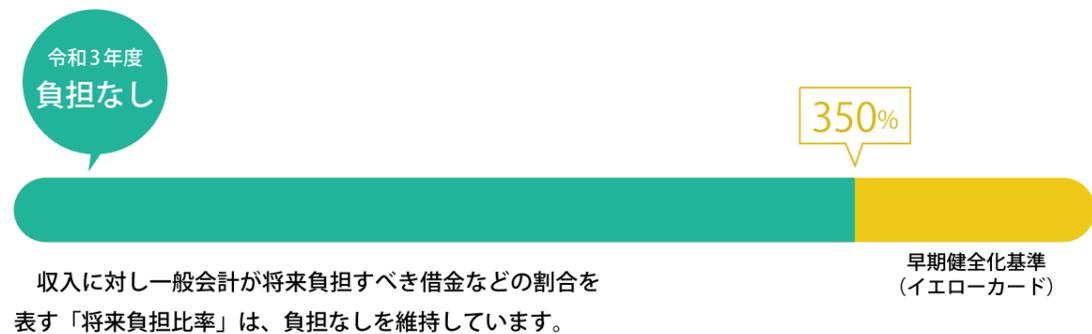
財政は健全です。

地方公共団体の財政の健全化に関する法律の施行により、健全化判断比率などの公表が義務付けられています。各比率とも健全化基準を下回っており、財政状況が健全であることを示しています。

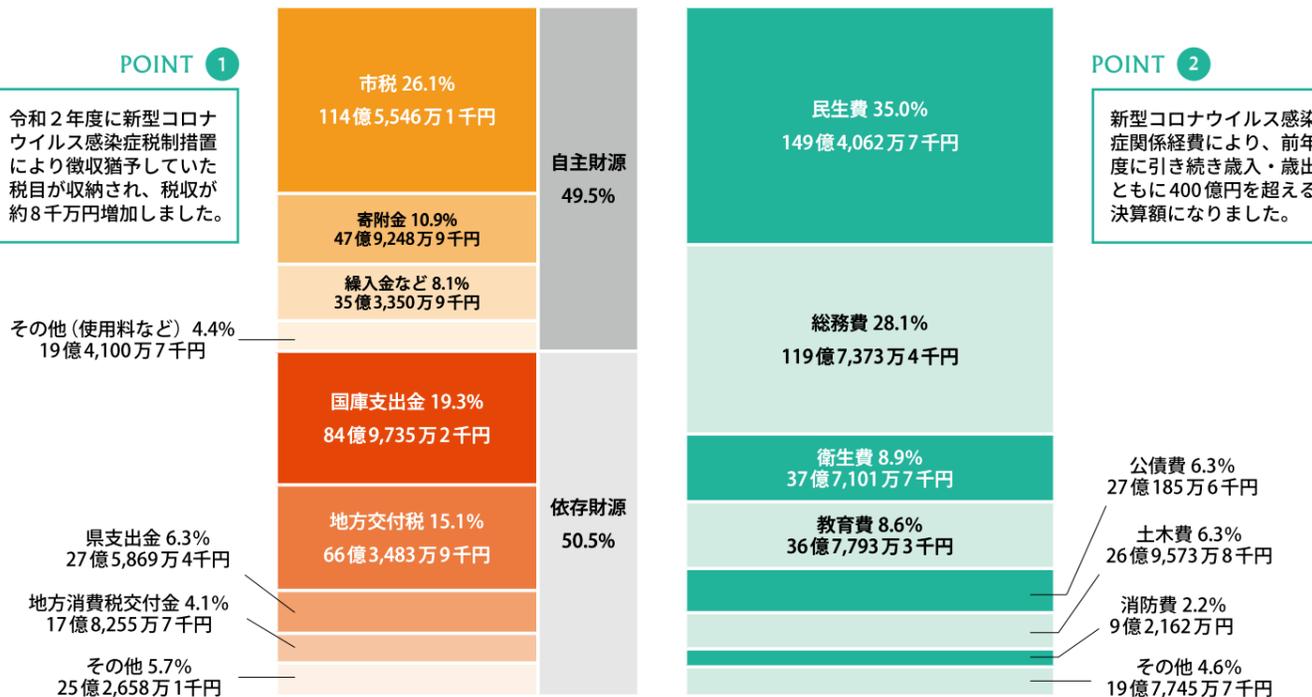
実質公債費比率



将来負担比率



歳入総額 439億2,248万9千円 歳出総額 426億5,998万2千円



1年間の成果

令和3年度もさまざまな事業を実施しました。
その一部をご紹介します。

新庁舎基本設計が完了 市民説明会を実施



2,292万5千円

令和3年7月に新庁舎の基本設計が完了し、概要版やイメージ動画の公表、市民説明会を実施しました。令和4年度は実施設計を行い、令和5年度から建設工事に着手し、令和7年度に竣工する予定です。

災害時の避難所となる八幡小学校で 防災機能を整備



3億9,792万5千円

八幡学区住民の約1割が八幡小学校で3日間生活することを想定した防災機能の整備（非常用発電機、排水貯留槽、プール浄水ろ過装置など）と、老朽化が進んでいる屋内運動場の長寿命化改良工事を実施しました。

沖島の新しい観光スポット 「沖島展望台」の完成



6,365万6千円

旧沖島小学校跡地では平成30年5月に石垣の崩落などがあり、安全対策が求められました。地域との協議を踏まえて令和2年度から斜面や階段の整備、展望エリアの整地、転落防止柵の設置などを行いました。

昼とは趣の違う魅力的な夜間景観 八幡堀のライトアップ演出



4,133万9千円

本市を代表する観光エリア「八幡堀」の新たな魅力を創出し、観光客の滞在時間延長を図るため、八幡堀沿いにLED照明機器を整備しました。日没後にライティング（演出照明）が楽しめます。

小学1年生から中学3年生までの 子どもの医療費を助成

1億6,258万6千円

子どもの通院にかかる自己負担額は、一定の所得制限を設け助成を行っていましたが、子育て世帯の経済的負担の軽減と、全ての子どもの健康増進を図るため、令和3年4月から所得制限を撤廃しました。



0～2歳児受け入れのための 老蘇こども園の施設整備

8,822万6千円

平成29年4月に老蘇幼稚園から3～5歳児の教育・保育を行う認定こども園に移行しましたが、令和4年4月から新たに0～2歳児を受け入れるため、令和2年度に遊戯室、令和3年度に保育室と調理室を整備しました。

新型コロナウイルス感染症対策

国・県の要請に対応した事業に加え、市独自の施策を速やかに切れ目なく実施しました。
市の独自施策の一部をご紹介します。



じもと応援クーポン& 地域応援シニア向けチケット

2億5,921万8千円

地域の経済活性化を図るため、令和2年度に実施したじもと応援クーポン事業に引き続き、65歳未満の人に3千円のクーポンを配付しました。また、65歳以上の人には地域応援シニア向けチケット事業として、市内で営業するタクシーやバス、まちづくり協議会・自治会でのカフェなどでも使える3千円の金券を配付しました。

観光商品の磨き上げと観光業の活性化！ ふるさと観光券事業

1億1,980万7千円

コロナ禍で打撃を受けた観光事業者への支援として、観光商品を掲載したガイドブックとウェブサイトを作成し、市民を対象に掲載商品を購入できる1万円分の観光券を5千円で販売しました。



時短休業要請に伴う助成・支援金と 事業協力支援金を事業者へ支給

9,928万8千円

県の営業時間短縮要請に関する補助として、「時短休業要請協力事業者雇用確保助成金事業」、「時短休業要請協力事業者取引先支援金事業」を実施しました。また県が実施した事業継続支援金を強化することを目的として、市内に事業所などを有し、売上が減少した事業者に対し「事業継続協力金」を支給しました。



高級ブランド「近江牛」を守る取り組み

9,485万円

近江牛生産農家を支援するため、肉用牛の素牛導入、繁殖雌牛導入に対する支援や、学校給食に市内産近江牛を提供することで消費を支援しました。また国の肉用牛肥育経営安定交付金で補填されない1割分のうち4分の3を上乗せして支援を行いました。